

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1.	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの周りの自然の中から、身近に感じ取れる事などを含めストレスを解放し、日々生き甲斐を持ち地域の方々と交流を織り交ぜながら暮らしていこう！ という想いが込められており趣味や一人ひとりの個々の『やってみたい』という意欲を尊重しながら家族の一員として支え合いたいと願う意味を持っている。	
2.	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	最低月一回以上、全体会議やチームカンファレンスを行っており、この場で理念の実践に向けて取り組方等を検討し、課題を見出し取り組んでいる。また、運営推進会議開催を通じ、地域の方々、地域の高齢者の方々と親睦を深める為の支援に向け創意工夫を重ね取り組んでいる。	
3.	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホール掲示板に何時でも誰でも目に付く場所に掲示している。家族の方々とは面会時等でコミュニケーションを図りご理解を頂いている。地域の方々には運営推進委員のご協力をもと各種行事等について、意見、アイデアを戴き取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4.	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所との交流は、日常散歩買い物（外出）などを通じて、顔見知りの関係は保っている。またホームの行事、ボランティア、慰問等にも参加頂いて交流を深めている。	
5.	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長は、地元自治会々員であり、集会や各種行事（掃除・祭事等）には積極的に参加して地域との交流に努めている。また運営推進会議の開催により、地域の方々が気軽に立寄って頂いている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居後予測されるリスク、心身の低下、退去時要件等を説明するに当たって出来るだけ、専門用語・略語等を避ける様心掛けて、理解して頂き易いようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の入居者の心身の様子を細かく観察して、小さな変化も見落とす事がない様十分注意している。その場合にはゆっくり傾聴し、声に出ない言葉を観察出来る様にしている。その為には入居者とのコミュニケーションを常に十分として、遠慮の要らない生活・話し合いが出来るムードづくりに心掛けている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月月初に『ふるさと便り』を送付して、生活状況・健康状態・行事等を報告している。またこの報告書には写真も添付しているので目で見て確認出来る様にしている。これ以外にもご家族様が面会に訪れた時には、その都度入居者の日常生活の状況を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡は常に密にして、コミュニケーションを十分とり、遠慮の要らない話し合いが出来るムードづくりに心掛けている。各棟にご意見箱を設置し些細な事でも気軽に聞けるようにして、苦情などがあつた場合には苦情対策委員会に諮り解決策を検討する事としている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月一回以上全体会議及びチームカンファレンスを行って、この場で職員からの意見や提案について出席者全員で検討している。職員ノートを作り自由に思いついた事や、自己の反省、情報の共有など職員が記入して、全体会議の議案として検討している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現状職員数は十分確保できており、利用者や家族の要望等に柔軟な対応ができる様体制はできている。如何なる事情があつても入居者様に迷惑をかけることない様、当然考慮しなければならない事として職員間の協調性を話し合い臨機応変に対処している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは基本的には、全員が全入居者の状態を把握し、いつでも誰にでも即対応出来る様に指導している。従って異動による影響はありません。行事等全員で行動する時、或は緊急時等共に協力を必要とする時、私は担当でないから解らないでは責任ある対処がとれない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修修了者が中心となって部内研修を行っている。また部外研修にも積極的に参加する様、時間（勤務の調整）、受講料（テキスト代金）等支援して、常に上位資格の取得へ挑戦するよう励ましている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度も、他施設の現場実習に参加させて、自施設にはない良い面を勉強する様、交流の機会を作っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各種行事の後の慰労会や定期的な懇親会等を行って、労を労う事により職員間空気は非常に良い。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	どんな些細なことでも報告出来るような、風通しの良い職場環境づくりに専念している。この結果各人の意識レベルも向上しており、今後も継続する事により、その人の持つ隠れた才能を伸ばして行きたい。職員個々に多様な研修会に参加希望があり、出来るだけ参加させている。終了後は必ずその報告会を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時の環境の変化に伴う戸惑いを少しでも解消すべく、可能な方にはデイサービスの利用により環境に慣れて頂いている。その結果、入所希望者及び受け入れ側双方の信頼関係を築く事ができ、職員間で最も適したサービスを提供出来るか検討している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者は勿論、家族とも面談、電話、手紙等により、コミュニケーションを密にする事により信頼関係を深めている。また一部の方であるがメールによるコミュニケーションを行って不安解消に努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と言えども、入居者本人の状態を正しく把握出来ていないケースもあるので、先ず本人の状態を把握すべく努力した上で、家族の意見も考慮して話し合い本人に最も必要とするサービスを決めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	項目23と同様、入居者様やご家族様に安心していただく為に、コミュニケーションを密にして一日でも早く信頼関係が築ける様心掛けている。またご家族様の面会時には入居者様と一緒に食事をして頂く事により、親近感を持って頂け入居後の孤独感が和らぎ早く馴染んで頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居者様を中心に考え行動し、入居者様から信頼して頂けるよう、季節の行事や年中行事に取り組み活気ある生活になるよう工夫し、また日々の食事においても入居者様の食べたいものをメニューに反映させるなど創意工夫をこらしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ふるさと便りを通じて、入居者様の日頃の生活や近況報告を行っている。また電話や便り、面会時など相談援助記録を作成し、記録を残すことで、その時々ニーズに合わせられるよう努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	深夜を除いて、面会時間は自由になっており、気兼ねなく来所して頂けるよう努めている。またお正月のおせち料理などを面会時の家族と共に食べることで馴染みやすい雰囲気作りにも努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	項目29と同様、面会時間は自由になっているため、家族だけでなく知人など入居者様の交友関係を大切にしており、外出や外泊支援も積極的に行っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者全体に協調性ができるよう、利用者一人ひとりの状態に合わせたケアを行い、職員が介入するが、あくまでも利用者が中心になるよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	項目28にある相談援助記録を活用していることで、退所前や退所後の相談に対応できるようにしている。また退所後であっても来所は自由であり、相談があれば応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の個性を見い出せる様、先ず信頼関係を構築しその上で日常の関わりから個々の思いを汲み取り支援に反映している。定期的なケアカンファレンスを行う事で職員間の情報共有を蜜とし一人ひとりの思いや希望に沿った支援につなげている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との対話の中から新たな情報を収集すると共に、本人の生い立ちや生活歴や病歴等について可能な範囲の情報を頭に入れて、適切な支援を行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の情報を共有することで、各人のニーズを見い出せる様ケアカンファレンスを行い、日々の生活に於いても“出来る”“出来ない”事を見出し各人の力を引き出せるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族は勿論のこと連携病院の主治医との関係も密にして、全職員で情報を共有し入居者本位のケアになる様、計画作成に取り組んでいる。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々生活の中から出来る事、出来ない事を見い出せる様、職員間の連携を重要視して、本人との面談や家族、主治医等に相談や指導を得て、一人ひとりに合った計画になる様に努め順次計画を見直し修正を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	ご家族様と十分な話し合いを行い、退所する先 によって対応が異なるが、サマリーによる情報提供 を行い新しい所に早く馴染めるよう支援してい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の取扱いには特段の留意する 事は勿論、プライドや人格を尊重して決して汚す 事のない様、常に言葉・行動に注意をしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	利用者のレベルによって対応が異なるが、出来 るだけ年齢に応じた言葉を使い解り易く繰返し説 明して、本人の希望を聞き出し自己決定出来るよ う支援している。例えば、カタカナ、外来語、若 者言葉等は理解できない言葉が多い		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	出来るだけ本人の希望に合った支援を行う為、 スタッフ全員が情報（生活リズム、認知度、性 格、身体の障害度等）を共有して対応している。 また、同居者との関係も考慮して可能な限り本人 希望に沿えるよう柔軟に取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	特に指定がない利用者には、月一回の訪問理・ 美容を利用して、身だしなみやおしゃれがで けるように支援している。また本人の望む店に行き たいと言う人にはその様に対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の唯一の楽しみである為、『何か食べたい物ある?』と希望を聞いて出来るだけメニューに採用して喜んで頂いている。また、料理は、食材の下処理や準備、後片付け等各人の能力に応じて、したい事、出来る事を考慮して手伝って貰っている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やタバコを好まれる人はいませんが、通気の良い渡ローカに喫煙所を設置している。飲物やおやつは好みのものを用意し、特に水分摂取はお茶以外でもお好きな物を何時でも提供できる様にしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成して、日々の排泄の状況を詳しく記録している。また、各居室には水洗トイレが設置されており、充分プライバシーが保たれた環境で排泄介助に当たる事が出来る。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は原則として毎日沸かしており、体調不良等がない限り入居者の希望によりいつでも入浴することができる。また状況に応じてシャワー浴、足浴等も取り入れている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者各人の生活習慣や体力等を考慮して、居室で休んで頂く時間を設けたりして、一人ひとりが居心地の良い空間作りを心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活では、洗濯物を分けて畳んだり、食事の手伝いや花木等の手入れなど過去の生活歴を活かし、支援している。又、定期的にお花見や、遠足、外食会などの外出支援を行い、外気に触れて楽しさと、気晴らしの提供をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々で認知症レベルが異なる為、自己での管理が可能な人は本人が管理している。本人管理が難しい人はホームが立替えて支払をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には日中職員と共に、ホーム周辺を散歩に出かけて、四季の草花や小鳥の鳴き声を聞いて自然を満喫している。またホーム内の芝生にも出られる様にしているので、外気に触れて気分転換が出来るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの行事として、日頃行けない所へ外出の機会を設けている。又家族との外出外泊は自由に認めて支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各人の残存能力に差があるので、一律ではないが出来る人にはそれなりの支援をしている。 (例えば、電話の番号呼出を代行したり、郵便物の投函を代行したり……等)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族以外の面会も自由であり、居室、ホール等にて深夜を除き時間を気にせず過ごして頂いています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部外の研修会等には積極的に参加して、身体拘束とはどんな事か又身体拘束をしないケアをにするにはどうすべきか、全員で話し合い正しく理解するようになっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>『日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解して……』とあるが、反対に『鍵を掛けない時の弊害……』についてどう考えたら良いのか……？ この反対の弊害の方が、計り知れなく大きなリスクであると考え、万一この大きなリスクが発生した場合誰が責任持つのか……？ 近年田舎でも用心が悪くなっており、新聞・TVで毎日の様に不可解な事件が報道されている。また、入居者及び家族様にお尋ねしたところ、『是非鍵は掛けて頂きたい』、『鍵を掛けていないと怖い』『安心して毎日を過ごしたい』との回答が圧倒的多数でした。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>消防計画・自衛消防隊・初期消火の重要性等について注意喚起を行っている。また、火災に備えてスプリンクラーを設置すべく、現在工事設計・費用見積・工事打合せ等を行っており、今年中には完了する予定である。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者個人個人のレベルによって異なるが、想定されるリスクについて職員間には勿論、家族にも伝え、また意見・希望を聞いて事故を、未然に防ぐ対策をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各人の普段の体調をスタッフがしっかりと把握する事を基本として、毎日の午前・午後バイタルチェック及び身体異常等が見られた場合、直ちに連携病院へ連絡し主治医の指示を受けて対処している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの投薬一覧表を作り、日付、個人毎に分け職員が管理し、服薬介助・見守りを行っている。また処方内容の変更があれば、服用後の状態観察を行い、随時主治医に報告して指示を仰ぐ事としている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表、一日毎の水分摂取表を作り、排便の有無・水分摂取量の確認をしいる。食事メニューには繊維質の食材を主とした調理の工夫をしている。また毎日の生活の中に館内・庭等を散歩するように取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、各人の状態に応じて口腔ケアの声かけ、見守り、介助支援を行っている。夜間義歯をはがされる時は、洗浄液につけるようにしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者各人の状態に応じた食事（嚥下困難な人にはトロミをつける、刻みを入れる、噛み易い食材の選択等）の工夫、栄養のバランス、カロリー過多とならない工夫等を行い対処している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	今年、従来の感染症に加えて、新型インフルエンザが流行しているため、予防・発生に徹底すべく特に厳しく注意を喚起している。新型・季節型の予防接種は勿論、手洗い、消毒、湿度管理等徹底すると同時に各所に消毒液も設置をしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ほぼ毎日少なくとも確実に、食材の仕入れに出かけ、より鮮度の高い食材の確保に努めている。まな板の消毒、手袋の装着、加熱処理した食事の提供を徹底している。冷蔵庫は週一回以上清掃して古い食材を残さないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季折々の花や木を植え、親しみやすい環境にしている。玄関前には障害物を避けゆったりとした空間を作っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、TV、ソファを設置して季節ごとの花等を生けている。また、壁には手作りのカレンダーや入居者の日々を写した写真を掲示したり、入居者の作品（備前焼）を展示して、心地よいスペース作りに取り組んでいる。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南向きの日当たりの良い、外の景色が見渡せるテラスに椅子を置き、一人で或は数名で過ごせるよう工夫している。また中央のソファ-席では大勢で座る事が出来、それぞれ自由に多様な場面で活用出来る様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居以前に使用していた馴染みの物など、本人の要望を踏まえた上で、危険が伴う物以外は原則として持ち込み自由とし居心地よく生活できるよう工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室に換気扇、空調を付け、空調の調整も利用者各人が行えるようにし、また定期的に職員が確認しています。</p>		
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室、フロアには手すりを付け、また居室内のトイレにも手すりをつけ、自立した生活が送れるようにしている。またシルバーカーや歩行器等の補助具も自由に使用出来る様にしている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>残存機能を活かすために手すりの設置、表札の工夫、花やリボン等の目印をつけて自室を覚え易くする工夫等日々検討し、また本人の要望も考慮し、混乱や失敗を無くすようにしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外回りには花や木を植え、またベランダには芝生を引き個人が活動しやすいように考慮している。畑や花壇もあり利用者様の生活歴を活かしたファーム作り、ガーデニングを楽しめるよう工夫している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
V. サービスの成果に関する項目				
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1 ③たまにあ ④ほとんど	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全て ②家族の2/ ③家族の1/ ④ほとんど	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日 ②数日に1回 ③たまに	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		④ほとんど		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増 ②少しずつ ③あまり増 ④全くいな
98	職員は、生き活きと働けている	○		①ほぼ全て ②職員の2/ ③職員の1/ ④ほとんど
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全て ②利用者の ③利用者の ④ほとんど
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全て ②家族等の ③家族等の ④ほとんど

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人は勿論、家族も交えて要望を聞き適切と思われるアドバイス等を行い、少しでも快適な毎日が過ごせる様に支援している。常に入所者中心に何事も考え行動して、出来る限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過して頂くには健康管理が重要である。その為、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられる様にして体調管理に努めている。なお、受診するについての送迎等は、車椅子移動車を導入して、出来るだけご家族様にご負担を掛けない様に配慮している。

基本的には、次の三つのスローガン基に何事も考え行動している。

1. 常に入居者様を中心に如何にして安心した快適な毎日を過ごして頂くことが出来ているか。
2. 入居者様の健康管理について、些細なことでも見逃す事がない様十分な管理を行い、常にベストな体調を維持しているか。
3. ご家族様には安心してお預けいただき、ご家族様のご負担軽減にお役に立つ事が出来ているか。